CONTENTS

4　特集
しば犬・しば猫物語。

12　菊水通信　大人の嗜み

13　Spiral Life　～終わりのないシバタへの旅～
第26回　洋子の想い出

14　手しごと物語。
金工

15　今月のとびっきり♥
七葉松味噌

16　れこめん道

17　寺日和　～長徳寺の記憶～
第26回　フランス料理と堀部安兵衛そばまつり

21　塩津潟と都岐沙羅柵のロマン

23　なべちゃんの健康通信

25　nikotan's voice

29　街角いいたいほ～だい

29　クーポンコーナー

30　プレゼント

塩津潟と都岐沙羅柵のロマン

〈第5回〉都岐沙羅柵と塩津潟の関係

伊藤　國夫

古代の新潟県には、渟足柵（647年）、磐舟柵（648年）、都岐沙羅柵（6508年）の三つの城柵が大和政権によって創置されました。

最も新しい「都岐沙羅柵」は、新発田市から胎内市にまたがる塩津潟周辺に存在したと考えられます。『倭名類聚抄』（京都大学文学部・国語学国文学研究室編）に「渟足磐舟2柵の間に斉明天皇4年紀都岐沙羅柵有る」との記述がみられることから、渟足柵（比定地：新潟市）と磐舟柵（比定地：村上市）の間に立地する都岐沙羅柵（比定地：胎内市）と考えられるわけです。

『康平絵図』（1060年）には、塩津潟が河川舟運の要衝地として描かれており、『日本書紀』に記された、阿倍比羅夫が率いた180余艘の大船団を繋留した港であったと考えられます。

また、塩津潟の北東側には少なくとも15ヶ所以上の古墳時代の遺跡が集中して発見されており、遺跡の密度や多量の炭化米・籾の出土から一定の人口数が推定され、水稲栽培の可能性が考えられています。大勢の防人を養う食料などの物資の供給が可能でした。

塩津潟の東端には、龍ほろき山古墳やひとかご山（城の山）古墳が築かれており、発掘調査が行われたひとかご山古墳からは銅鏡やヒスイの勾玉・太刀・ガラス玉・鉄斧等々が出土し、大和政権との関係性が4世紀前半まで遡れることが立証されました。

塩津潟周辺の古墳時代の遺跡に隣接して祀られる3社の弥彦神社（伊夜日子）、胎内市築地・大塚（ひとかご）山古墳・苔実之、新発田市五十公野の古四王神社、旧加治川村の願文山も都岐沙羅柵と繋がりをもつと考えられます。

東京大学教授（後の國學院大学学長）芳賀矢一博士が作詞をした「築地村歌」にも、

――史に名高き月さらの　昔すえたる礎を　固め固めて年々に　栄こそ行け築地村――

とあり、「月さら」は、「都岐沙羅柵」のことだと考えられます。

詳細は、『年報　新発田学』敬和学園大学第4号（平成25年3月発行）掲載の「大和政権の城柵「都岐沙羅柵」の探究」をご参照ください。

芳賀矢一博士（国学院大学学長）
「築地村歌」の作詞者
「塩津潟は塩の道」より

伊藤國夫
・塩津潟教育研究所　所長
・敬和学園大学「新発田学研究センター」般研究員
・日本文化伝導士